

■After 建築名称 下段: 英語名		佐原町並再生プロジェクト いなえ Inae,Sawara Townscape Regeneration Project		建築URL				
建築用途		大分類 商業施設、展示施設、コミュニティー施設	小分類 喫茶、ギャラリー、集会場		 <p>After 2棟の町家が並ぶ外観。左は物販、右はコミュニティーユースに再生。</p>			
設計者		郡 裕美+遠藤敏也/スタジオ宙		設計事務				
所在地		千葉県香取市佐原イ511		Google Map				
改修年		2007年-2012年	元建築の竣工年					
建築規模 構造・階数・面積		延床面積: 西ノ宮母屋(コミュニティースペース) 100.71㎡、倉(喫茶) 83.85㎡、玉澤家母屋(物販) 29.57㎡、洋館(ギャラリー) 10.58㎡、土蔵(ギャラリー) 26.84㎡						
掲載書誌		新建築2013年9月号						
賞・選定		2015年建築学会賞(業績)				撮影者 提供者	撮影: 桐原武志 2015年	
主な関連法規、条例、助成金等		文化庁町並み保存事業助成金対象事業、東日本大震災復興 経済産業省 地域商業活性化支援対象事業				概要 after	減築、曳家、改修、再建を組み合わせ、不整合な建築様式の建物群を個性として活かし、過去の痕跡を加えながら再構成した再生プロジェクト。	
関連組織等								
資料等		伝統的建物の再生と新たな価値の創造		資料のURL				
■Before 建築名称		西ノ宮文具店				概要 before	明治から昭和の様々な様式の5棟の建物が、複雑に絡み合い、隙間に屋根ががかけられ内部化され、居室や倉庫、店舗として使われていた。	
建築用途		大分類 商業施設、收藏施設	小分類 店舗、倉庫			After 中庭から表家を見返す。		
■写真 Before	嵩上げされ、看板建築化していた文具店の表家の外観		After 通りに面する表家内観。通りからここを通して中庭を見通すことが出来る。					
								
撮影者 提供者	撮影: 郡 浩美 提供: スタジオ宙		撮影者 提供者	撮影: 森山 雅智 提供: いなえ		撮影者 提供者	撮影: 森山 雅智 提供: いなえ	
■関連タグ/リノベーションキーワード		用途変更、痕跡、多様性、遺構						
■リノベーション内容		<店内に置かれていたパンフより> 歴史を紐解き未来へ繋ぐ始めて訪れた時、そこは「伝統」の片鱗も感じられなかった。通りに面した2軒の町家は「看板建築」と化し、たび重なる増改築の結果、裏にあった洋館、土蔵、倉と、輪郭さえ不明なほど複雑に絡みあい、全体が大屋根で覆われて巨大な内部空間をかたちづくり、5棟が一体となり文具店の店舗兼倉庫として使用されていた。 今回の計画は、そこに堆積した歴史を少しづつ紐解くことから始まった。古写真が残っていた町家の外観以外は原型がほとんどわからず、柱のほぞから架構を推察したり、近隣にある他の類似建物に手がかりをもとめるなど、考古学的な取り組みで設計を進めた。また、各棟とも老朽化がかなり進んでおり、基礎、構造、屋根、内外装すべてに手を入れる必要があった。 中庭部分に架かっていた大屋根を取り外した後は、さまざまな建築様式の建物が脈略なく建っている不思議な棟配置が現れた。そこで、むしろ、その重なり合った時間の不整合な感じや、遺構のイメージを大切にしながら空間全体を再構築していった。震災で落下した古瓦のオブジェや土蔵の基礎石でつくった石畳、もともとあった板金製の古い鬼瓦や錆びたトタン波板、廃墟感をあえて残す裏庭など、「いなえ」のあちこちに場所の記憶をちりばめ、歴史を感じる風景をつくった。<郡裕美+遠藤敏也>						
■備考		在来は、雑多な建物が混在しているばあい、統一感を出す再生が行われていたが、今後は雑多性に価値を見出し、様々な建物が混ざり合うデザインが求められると思える。						
■作成者 氏名/所属		桐原武志 Free/JIA再生部会		作成協力者	スタジオ宙	整理番号	No	